

令和 2 年度 東京都立戸山高等学校学校経営報告

校 長 決 定

1 今年度の取組状況と取組目標に対する自己評価

自己評価の基準：【A】十分達成できた 【B】概ね達成できた 【C】あまり達成できなかった

(1) 学校経営・組織マネジメント

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
ア 学校組織マネジメントを意識した学校経営 【A】	<p>① 校務分掌を中心とした様々な業務のシンプル化、「見える化」を図り、全教職員が内容を把握できるようにする。</p> <p>② マンパワーに頼ることなく、組織（チーム）として課題解決に向けた仕事ができるような計画的な人財育成と人財配置（人事異動）を実施する（属人的な仕事から、チームとしての組織的な分掌業務への移管）。</p> <p>③ データ・ファクト・ロジックに基づいた学校経営・校務分掌の推進</p> <p>④ 効率的な予算編成並びに執行（選択と集中）</p>	<p>① 企画調整会議において、業務のシンプル化、「見える化」について共通認識をもつことができ、全教職員が内容を把握できるようになった。</p> <p>② 常に「組織」を意識した業務を遂行するように意識改革を行い、事件・事故へは速やかな対応が可能となった。また、長期的な視野に立った人財管理・育成から管理職候補者を 2 名輩出できた。</p> <p>③ データ・ファクト・ロジックに基づき学校評価を行い、次年度の指標を得ることができた。</p> <p>④ 経営企画室が中心となった計画並びに執行が実現できた。</p>
イ 新型コロナウイルス感染拡大防止等に対応した安心・安全な学習環境づくり 【A】	<p>① 新型コロナウイルス感染拡大防止等に対応した弾力的な教育課程の編成</p> <p>② パラダイムシフト（枠組みの転換）における授業のあり方の検討・オンライン学習等、試行錯誤しながらの学習環境の確保</p> <p>③ 生徒の健康面を意識した学校行事の再編成（延期もしくは中止）</p> <p>④ デジタルデバイドを意識した情報発信（あらゆるメディアを活用した情報発信）</p>	<p>① 臨時休業期間の授業時数確保のため、学校行事の見直しや毎土曜日、祝日の授業日への振替により、ほぼ昨年度並みの授業時数を確保できた。</p> <p>② ほぼすべての教科において、その特性に応じてオンライン、オンデマンドの授業を配信出来た。</p> <p>③ 感染拡大防止のために、運動会、新宿戦、修学旅行等の行事を中止した。</p> <p>④ ホームページや Classi を活用した連絡体制を確立できた。</p>
ウ カリキュラム・マネジメントを意識した教育課	<p>① R P D C A を意識した教育課程の編成</p> <p>② 教科横断型の教育課程の編成</p>	<p>① 新学習指導要領に対応した教育課程の編成を実行できた。</p> <p>② 学校設定教科（科目）である「知の</p>

<p>程の編成 【A】</p>	<p>③ グランドデザインに基づく、全教科のルーブリックの作成と評価の試行</p>	<p>探究Ⅰ、Ⅱ」を全校体制で実施できた。 ③ 評価の試行までは全教科できなかったが、各教科においてルーブリックは作成し、1学年においてはシラバスに提示できた。</p>
<p>エ Tokyo スマート・スクール・プロジェクトの実現 【B】</p>	<p>① Wi-Fi 環境の整備により、ICTを最大限に活用し、費用対効果、時間対効果を考えた教育活動を行うために、Classi 等を活用した、学校評価やアンケート集計等の実施や部活動指導員のアウトソースを活用する。 ② 職員会議等の会議におけるペーパーレス化と完全な電子起案化の推進 ③ 働き方改革により夏休完全消化、有給休暇15日以上を取得する。</p>	<p>① 11月にWi-Fi工事が完了し、オンラインでの保護者会、講演会を実現できた。学校評価アンケートもClassiで実施し、集計の省力化に寄与することができた。また、外部指導員の活用もできた。 ② オンラインによる企画調整会議では、会議資料をペーパーレス化できたが、対面型会議の資料については、今後の課題として残った。電子起案についてはほぼ完全に実施できた。 ③ 夏季休暇についてはほぼ全教職員が5日を消化できたが、有給休暇15日以上取得は厳しく、年休取得率(20日を上限)とすると、45%の取得にとどまった。</p>
<p>オ 特色化を意識した教育課程の編成 【B】</p>	<p>① 進学指導重点校としてのトップランナーを目指す新教育課程の編成 ② SSH及びTMのシンプルかつ分かりやすい事業構築(「見える化」) ③ 総合的な探究の時間(人間と社会)における体験活動の再構築(清掃活動等の奉仕的内容の取りやめ) ④ SSHとTMと連動したSTEAM教育の検討並びにSDGsを意識した教育活動の実施</p>	<p>① 新教育課程の編成については編成完了した。 ② 事業の「見える化」を行い、全教職員に事業内容一覧を配布した。 ③ 「人間と社会」の授業では、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からも体験活動は再構築を行った。 ④ 文理分けしない教育課程において、探究活動を中心にSDGsをテーマに実行した。</p>

(2) 学習活動

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
<p>ア 「東京型教育モデルの実現」 【B】</p>	<p>① 暗記中心、チョーク&トークのパッシブな授業形態や過去の成功体験からの脱却した学習指導の実施 ② ICTを最大限活用したオンライン授業のあり方の構築や実践、及び個に応じた学習指導の実施</p>	<p>① 全教職員がアクティブな授業展開を検討していたが、新型コロナ感染拡大防止の観点からは、実現できなかった教科もあった。 ② オンラインを活用した授業や対面型の授業においても多くの教員がIC</p>

	③ 主体的・対話的・深い学びの実現による教科横断型（「知の探究」）の授業の実践	Tを効果的に活用した授業を実現できた。 ③ 「知の探究Ⅱ」については、初めての全校展開による授業実践だったことから、授業の取り組み方について、担当者によりけりの対応となってしまった。
イ 新学習指導要領に対応した授業展開 【C】	① 観点別評価を含めた学習評価の在り方の検討 ② 新たな科目に対応した教材研究の開始 ③ 大学入学共通テストに対応した学校設定教科・科目の設定	① 学習評価については、ルーブリックの作成までにとどまった。 ② 地理総合、歴史総合等の新教科の教材研究については、担当者によって始まったばかりである。 ③ 共通テスト対応については、今後の課題として残った。
ウ 進学指導重点校としての学力向上に向けた組織的、継続的な取り組み 【A】	① 習熟度授業及び少人数授業、夏期講習等により個々の生徒の学力、進路希望先に合わせた学習指導の推進 ② 基礎学力が不足している生徒に対して、早期の補習等の実施 ③ 入学時からの学力の定点観測と「学力進路データベース」の整備により個々の生徒の状況を全教員で共有し、学力の向上と進路希望の実現	① 生徒の希望先に応じた講習の実施並びに個別対応を実施した。 ② 下位層の学力引き上げについては、補習や個別対応により実現できた。 ③ 進路部を中心とした月例の「進学対策会議」により、各学年の模試の結果の分析等の共有化で、進路実現に向けた指導ができた。
エ AI時代に対応した学力の育成 【B】	① すべての教科において、読解力を育成するための授業内容の再構築 ② 読書活動を通じた思考力・判断力・表現力・創造力の育成 ③ タブレット端末の活用や Classi 等を活用した授業展開の実施	① データに基づく授業内容の再構築まではできなかったもので、次年度新1年生にリーディングスキル・テストを導入し、その結果を基に授業内容の再構築を行う。 ② 総務部の協力により、臨時休業期間中は「今週の一冊」の推薦図書をホームページに掲載する等、読書活動を推進した。 ③ 1、2年生は iPad のレンタルを推奨し、探究活動での活用や、Classi を活用した課題配信等をおこなった。
オ 英語教育推進校として4技能をバランスよく育成し、将来国際社会	① オンライン英会話やJETの活用等により、特に「聞く」「話す」力の育成 ② 4技能を測定する外部検定試験（G	①②③ オンライン英会話等の実施により、2年生においては、CEFR-JにおいてB1レベル、1年生においては、A2レベルに達した。

<p>に貢献できる人材の育成</p> <p>【A】</p>	<p>TEC等) 1学年、2学年全員に受験させ、総合的な英語力を育成</p> <p>③ JETを活用し、現代英語として適切な表現ができる力の育成とともに、理数論文等でも的確な表現ができる力の育成</p> <p>④ TGG (Tokyo Global Gateway) を活用したアウトプット場面の設定と企画</p>	<p>④ 次年度の活用に向け、新1年生を対象に 2022 年3月に実施するように予約を完了させた。</p>
<p>カ SSH第Ⅳ期指定校としてのSSH事業の一層の充実</p> <p>【B】</p>	<p>① 1学年のSSHクラス以外の生徒が学校設定科目「知の探究Ⅰ」を履修することで、2学年で行う本格的な探究活動に向けた準備の実施</p> <p>② 科学の甲子園等のコンテストでの上位入賞、生徒の英語での研究発表回数増加</p> <p>③ 生徒研究成果合同発表会と理系女子交流会(マリーハウス)の開催</p> <p>④ テレビ会議システム等を有効に活用しながら、海外を含む研究機関や大学等との共同研究や直接交流、他のSSH校との連携強化促進</p> <p>⑤ SSH事業成果を東京都内及び首都圏小中学校や高校教員へ発信</p> <p>⑥ 全生徒を対象にSSH講演会や教科融合(連携)型の講義、ワークショップの実施により、理数リテラシーの育成並びにプレゼンテーション能力の育成</p>	<p>① SSHクラス以外で、「知の探究Ⅰ」を全員に履修させたが、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、城ヶ島巡検は実施できなかった。</p> <p>② ほとんどのコンテストが、中止もしくはオンライン開催のため、昨年度並みの発表回数となった。</p> <p>③ TSS並びにSWRについては、規模の縮小やオンラインでの開催となった。</p> <p>④⑤ 感染拡大防止から、今年度についてはほとんど交流等ができなかった。</p> <p>⑥ オンラインではあったが、SSH講演会を通じて、SDGs等について身近に感じるようになった。</p>

(3) 進路指導

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
<p>ア 進学指導重点校としての1学年からの系統的、組織的な進路指導</p> <p>【A】</p>	<p>① 学習ガイダンス等の丁寧な実施により、入学時の高い進学目標を維持させ、目標達成に向けた努力を促す。</p> <p>② ビックデータを活用した進学対策会議を中心に志望校検討会議も活用しながら進路部を中心に学年と教科が個々の生徒の情報を共有することで、</p>	<p>① 卒業生の同窓会組織(城北会)と連携し、卒業生講話等や進路ガイダンスを通じて目標達成に向けたモチベーションの涵養をすることができた。</p> <p>② 進路部と3学年が連携し、月1回の進学対策会議により、各教科の状況、個別の生徒の状況等の共有化を図り、</p>

	<p>組織的な学力向上と希望進路の実現を図る。</p> <p>③ 1、2学年はClassiを有効活用し、ポートフォリオの作成と併せて、学習のリフレクション(振り返り)を行うことで、よりきめ細かな個別指導の充実を図る。</p>	<p>組織的な進路指導に生かすことができた。</p> <p>③ Japan-eポートフォリオの破綻により、ポートフォリオの作成は見合わせた。</p>
<p>イ 長期休業期間中の講習参加生徒の増加</p> <p>【A】</p>	<p>① 各教科で講習内容を検討し、全員体制で効果的な講習を実施する。</p> <p>② 長期休業日中は、部活動、学校行事の準備より講習を優先するように生徒指導を行い、講習参加者の増加を目指す。</p> <p>③ 早い時期に長期休業日中の講習の講座数・日程等を生徒に周知し、生徒に長期休業日中の学習計画の作成を促す。</p>	<p>① 夏期休業は非常に短かったが、オンラインでの講習を含めて、全教職員が対応した。</p> <p>② 感染拡大防止の観点から、部活動の夏期合宿が中止となり、結果的に夏期講習がメインとなった。</p> <p>③ 時間割が確定したのち、生徒全員に対して受講の呼びかけを行い、遅れ気味であった学習計画を再構築できた。</p>
<p>ウ TMの取組みにより、医学部医学科進路希望者への進路実現</p> <p>【B】</p>	<p>① これまで実施してきたTMの活動内容を学年ごとに整理し、全教職員がわかるような事業のシンプル化、「見える化」を図る。</p> <p>② クラウド等を活用して、個々の生徒の学習状況と学習成果を迅速かつ的確に把握した指導を実施する。</p> <p>③ 在京の医科大学や医学系研究機関、病院等と連携し、生徒向けの講演会、見学会、体験実習等を実施し、課題研究と研究発表会を実施する。</p> <p>④ 1年次から十分な自主学習時間を確保させ、文系科目も含めて基礎基本を取りこぼすことなく学習させる。</p> <p>⑤ TMに参加していない生徒も含め、医学部医学科に対する進路情報を提供し、自分に合った大学を受験できるように支援する。</p>	<p>① 分掌主任を中心に、TM活動の内容を整理し、「見える化」を図ることができた。</p> <p>② Classiを中心に個々への課題やTM通信の配信を行い、対応できた。</p> <p>③ 新型コロナウイルス感染拡大のため、在京医科大学や病院との体験実習等は行うことはできなかったが、大学医学部や臨床科等の調べ学習の発表会は年度末に実施できた。</p> <p>④ 模擬試験の受験だけでなく、学習時間の管理も適宜行った。</p> <p>⑤ TMplusとして、TMに参加していない医学部進学希望者に対しても情報提供を行った。</p>
<p>エ キャリア教育の重視</p> <p>【B】</p>	<p>① 学校外の機関や卒業生等からの支援等、外部人材を活用し、進学校としてのキャリア教育の充実を図る。</p> <p>② 進学指導重点校としてのミッショ</p>	<p>① 卒業生の合格体験講演会や同窓会との連携により、進学に向けての環境づくりができた。</p> <p>② 大学合格だけがゴールでないこと</p>

	ンだけではなく、社会との接続（トランジション）を意識した見えない学力（コンピテンシー）の育成を図る。	をあらゆる機会を通じて説明した。社会に出て必要な力を育成することに対して、教職員の意識改革を図った。
--	--	--

（４）生活指導

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
ア SNSの適切な利用促進に関する指導の徹底 【B】	① 望ましい生活習慣を確立する指導の一環として、生徒が意図せずにトラブルや犯罪に巻き込まれたり、他者を傷つけたりすることのないよう、全教職員があらゆる機会をとらえて「SNS戸山ルール」の徹底を図る。	① SNSルールについて、徹底を図っていたところだったが、一部の生徒による逸脱があったために特別な指導を行う状況になった。
イ 体罰根絶といじめの事前防止・早期発見・早期対応の徹底 【A】	① いじめ・体罰に関するアンケートを年3回実施するとともに、特に部活動において顧問教諭と外部指導員とが連携して体罰を根絶する体制を構築する。 ② アンケートの結果により、いじめが発覚した場合には、いじめ防止対策委員会を速やかに開催し、初動対応によって重大事案にならないようにスクールカウンセラーを含めた全教職員で組織的な対応を実施する。	① いじめ・体罰に関するアンケートは年3回実施し、記述内容によっては聴き取りを行ったが、課題として残るようなものはなかった。 ② スクールカウンセラーとの連携により、定期的な報告と教育相談委員会を定例的に実施した。
ウ 戸山ならではの生活指導の充実 【A】	① 一方的な指導や放任ではなく、見守る体制を取りながら、学校生活の充実に向け、生徒自らルール作り等ができるように導いていく。	① 生徒部を中心に、見守ることをスタンスに生徒指導を行えた。

（５）特別活動・部活動

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
ア ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事を通じた生徒の主体性の育成 【A】	① 本校の伝統である「自主自立」の精神を踏まえ、生徒が自ら課題を見つけ、自ら収集した情報をもとに自ら解決策を考え、自らの意志決定により、問題をよりよく解決していけるよう支援する。 ② 学校行事において、見通しをもって計画的に準備させることにより、質の確保と行事終了後は速やかに学習中心	① 学校行事等の実施に際し、教職員が指導するのではなく、生徒たちによる企画力・実行力の育成を基本に見守る体制の支援が行えた。 ② 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年度の学校行事は大幅に見直しを行った。それにより、これまでとは違った形での実施に至ったものがあるが、代替行事に関しても生徒自らの企画

	<p>の生活に復帰できるよう指導し、授業や学業との両立を図る。</p> <p>③ 特別活動終了後は、必ずリフレクション（振り返り）を行うとともに、Classi等の活用によりアンケートを実施し速やかに次年度に向けた反省点を見出ししていく。</p> <p>④ 経営企画室と連携し、会計担当生徒を指導し適切な会計処理を実施する。</p>	<p>力や解決力により対応することができた。</p> <p>③ Classiを活用したりリフレクションを行い、次年度に向けた課題を見出せた。</p> <p>④ 経営企画室と連携を図り、適切な会計処理を実施した。</p>
<p>イ 部活動を通じた健全育成</p> <p>【B】</p>	<p>① 「部活動に関する活動方針」や文化部・運動部活動ガイドラインに基づき、全部活動が週二日以上完全休養日を設定するとともに、短時間で最大限の効果を上げる合理的な活動内容や活動方法等を工夫することで、自主学習の時間を確保する。</p> <p>② 勝利至上主義に陥ることなく、生徒の自主性を尊重した部活動の在り方を意識した指導を実施する。</p> <p>③ 部活動ごとに口座を開設し、部費を一元管理するとともに、通帳や会計報告等を定期的に管理職が確認することで、適正な部費の執行・管理を行う。</p>	<p>①② 4月から6月末、1月から3月までは、緊急事態宣言の発令により、部活動に関しては一時的にほとんど活動ができなかった。</p> <p>③ 部活動に係る経費は、生徒任せにするのではなく、顧問が適切に関わりながら管理し、通帳及び印鑑は管理職の適切な管理下により執行した。</p>
<p>ウ 「アクティブプラン to 2020」を踏まえた体力向上</p> <p>【A】</p>	<p>① 体育の授業や体育的行事、部活動の充実により体力テストの結果を向上させる。</p> <p>② オリンピック・パラリンピックを契機とした生涯スポーツに親しむ姿勢を育成する。</p>	<p>① 体力テストの向上により、令和2年度の「子供の体力向上推進優秀校」として、都教育委員会から表彰された。</p> <p>② 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、体育の授業も種目等に制約を受けたが、体力向上だけでなく、スポーツに親しむ姿勢を育成した。</p>

(6) 安心・安全な環境作り

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
<p>ア 心身の健康と安全に対する意識を高めた健全育成</p> <p>【B】</p>	<p>① 関係機関と連携した防災教育を行うことで、自助・共助の精神を培う。</p> <p>② 自転車使用に関する安全教育指導を行い、自転車通学者の保険の全員加入やヘルメット着用の指導を実施する。</p> <p>③ 発達障害等、特別な支援が必要な生</p>	<p>① 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年度は都教委の指示により宿泊防災訓練は中止、避難訓練も3密を避けることから、これまでどおりの実施を見合わせた。</p> <p>② 自転車使用に関しては、YouTube動画を作成し、指導を実施した。</p>

	<p>徒に対して、合理的配慮に基づく適切な対応を実施するとともに、障害者への理解推進を図る。</p> <p>④ スクールカウンセラーと連携を図り、定期的な教育相談委員会を実施することで、生徒のメンタル面でのサポートを行う。</p>	<p>③④ スクールカウンセラーと定期的な情報交換を行い、課題のある生徒の対応について、研修会、教育相談委員会等の機会を通じて全教職員で共有化を図った。</p>
<p>イ 危機管理の徹底</p> <p>【A】</p>	<p>① 新型コロナウイルスの感染拡大防止に最大限配慮し、校内においては3密（密閉、密集、密接）の場面を避けた教育活動を実施する。</p> <p>② アレルギーや疾病のある生徒に関する情報を校内で共有し、危機管理に努める。</p> <p>③ 生徒のメンタル面における小さなサインを見逃さず、迅速かつ組織的な対応を行うとともに、SOSの出し方に関する教育を推進する。</p> <p>④ 学校事故の未然防止（リスクマネジメント）と事故初動対応の重要性を理解し、授業や部活動等の体育活動中の事故を未然に防止するとともに、万が一事故が発生した際には、速やかな報告・連絡・相談体制により、被害を最小限にとどめる。</p> <p>⑤ 児童相談所や警察等と連携し、家庭内での虐待からの生徒の安全を確保する。</p> <p>⑥ 支援センターが作成した「ヒヤリハット集」を活用した危機管理研修を実施する。</p>	<p>① 1学期については、都教育委員会の指示に基づいた教育活動を実施した。</p> <p>② アレルギーや疾患のある生徒については、職員会議の場を通じて情報を共有化した。</p> <p>③ スクールカウンセラーによる研修会の場において、対応の仕方等について情報の共有化を図った。</p> <p>④ 全教職員に対してリスクマネジメントを徹底し、授業中並びに部活動中の事故発生時の対応については改善を図った。また、常に組織的な対応ができるような報連相体制は確立できた。</p> <p>⑤ 児童相談所や教育相談センター、警察等の関係機関と連携を図りながら生徒の安全確保について対応できた。</p> <p>⑥ 全教職員対応の服務事故防止研修において、「ヒヤリハット集」を活用した危機管理について12月に実施した。</p>
<p>ウ 校内美化の徹底</p> <p>【A】</p>	<p>① ゴミの分別や清掃の励行等を全教職員が指導することで、校内美化の徹底を図り、学習の場にふさわしい環境を整備する。</p>	<p>① 保健部が中心となって、ゴミ処理や消毒等について、常に安心・安全な学習環境を維持することができた。</p>

(7) 募集・広報活動

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
<p>ア 組織的な募集活動の充実</p>	<p>① 本校の特色や強みをデータで提示する等、わかりやすく中学生・保護者</p>	<p>①② 新型コロナウイルス感染拡大防止の影響により、中学校・学習塾等主</p>

【A】	<p>ヘアピールする。</p> <p>② 戦略的かつ効果的な募集活動を展開し、学校説明会、学校見学会だけでなく、学習塾の出張説明会等積極的に広報活動を実施する。</p> <p>③ 私立高校を意識した学校案内の刷新や「まなびゅー」やYouTube等の動画の活用等、イメージ戦略を整える。</p>	<p>催の出張説明会へは4回しか参加できず、1学期中に予定されていた授業公開、春の学校見学会、小学生と保護者のための学校見学会、体験授業については、中止せざるを得なかったが、総務部の努力と企画により、オンラインでの塾対象説明会、学校説明会、入試問題解説会等は実施できた。</p> <p>③ 私学を意識した学校案内については、年度内に原稿を作成できた。学校紹介のためのYouTube動画の作成を行い、公開した。</p>
イ ホームページの刷新 【A】	<p>① スマートフォンでの閲覧を意識したホームページの構成等、わかりやすくアクセスしやすい内容にする。</p> <p>② カウンター機能を重視し、アクセス件数を把握することで、中学生や保護者の動向を探る。</p> <p>③ 在校生やその保護者向けに、適切な内容を随時掲載する。</p>	<p>①②③ ホームページのリニューアルを2月に完了した。アクセス数を定点観察し、その状況等は企画調整会議で報告を行った。一日の平均アクセス数は1,000件を超え、年間の更新回数は、110件以上となった。</p>

(8) 経営企画室体制

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
ア 学校経営への参画 【A】	<p>① 学校経営計画に基づき、学校経営に参画し、工夫を凝らした経営企画室運営を行う。</p> <p>② 教員と企画室職員が協働し、積極的な経営参画を図る。</p> <p>③ 働き方改革の一環として「費用対効果」と「時間対効果」を意識し、ICTを最大限活用した業務遂行をする。</p> <p>④ 学校の総合窓口として思いやりの心と品格を重んじ、全校の機能をスムーズに調整する。</p> <p>⑤ 業務全般を理解するとともに、担当部署のスキルアップを図ると同時に課題意識を常にもち、組織的に業務改善を図っていく。</p>	<p>①② 会計年度任用職員3名を含め、経営企画室全身体制による学校経営への参画により、適切な予算執行が行えた。</p> <p>③ ICTを最大限活用し、決算関係の書類を除き、電子起案化100%は達成できた。</p> <p>④ ワンストップサービスとして、経営企画室の窓口業務、電話対応について適切に実行できた。</p> <p>⑤ 業務改善を意識し、全メンバーによる新規採用職員の育成も適切に実行できた。</p>
イ 適切な予算執行	<p>① 計画的な事務執行により、予算の有効活用と一般需用費におけるセンター</p>	<p>① 新型コロナウイルス感染防止対策による、緊急性のある予算執行があつ</p>

【A】	<p>執行率の向上を図る。</p> <p>② 教員との連携により、中長期的見通しに立った施設・設備・備品等の更新を図る。</p> <p>③ 図書館運営や施設管理において委託業者と連携し、適切な運営を図る。</p>	<p>たため、センター執行率は計画通り進めなかった。</p> <p>② 適切な予算編成及び執行により、これまでの慣行による執行体制を適切化できた。</p> <p>③ 委託業者との連携により、適切な運営を行えた。</p>
ウ 関係団体との連携 【A】	<p>① 保護者会（戸山会）との積極的な連携を図り、校務運営を支える。</p> <p>② 同窓会（城北会）と連携を図り、学校の適切な管理を行う。</p>	<p>①② 戸山会及び城北会との連携により、卒業生講話や校務運営を適切に実行できた。</p>

2 数値目標と達成数値

重点目標	具体的な数値目標 (平成31年度達成数値 *9クラス編成時)	達成数値
自主学習時間の確保（平日の自主学習時間）	<p>1年生6月 3時間（2時間 4分）</p> <p>11月 3時間（1時間43分）</p> <p>2年生6月 3時間（2時間 1分）</p> <p>11月 3時間（2時間10分）</p> <p>3年生6月 5時間（4時間22分）</p>	<p>4時間 3分</p> <p>2時間21分</p> <p>2時間12分</p> <p>2時間32分</p> <p>2時間27分</p>
学力向上（総合偏差値）	<p>定点観測の11月のベネッセ模試総合成績における総合偏差値</p> <p>1年生 74以上 60名（35名）</p> <p>68以上180名（170名）</p> <p>60以上310名（302名）</p> <p>2年生 74以上 30名（26名）</p> <p>68以上200名（193名）</p> <p>60以上300名（293名）</p>	<p>48名</p> <p>152名</p> <p>297名</p> <p>45名</p> <p>141名</p> <p>270名</p>
進学指導重点校としての進学実績	<p>① 大学入学共通テスト5教科以上受験者 300名（328名）</p> <p>② 同上760点（約85%）以上受験 70名（37名）</p> <p>③ 東京大学現役合格者10名（9名）</p> <p>④ 難関国公立大学（東大・京大・東工大・一橋大・国公立大医学部医学科）現役合格者 45名（30名）</p> <p>⑤ 国公立大学現役合格者 140名（137名）</p> <p>⑥ 国公立大学医学部医学科現役合格者 6名（5名）</p>	<p>273名</p> <p>51名</p> <p>8名</p> <p>33名</p> <p>145名</p> <p>7名</p>
募集対策の充実	<p>① 学校説明会（10、11月）の参加者 2,200名（2,080名）</p> <p>② 応募倍率</p> <p>（推薦選抜） 4.25倍（4.10倍）</p> <p>（学力選抜） 2.30倍（2.29倍）</p>	<p>2,724名</p> <p>4.50倍</p> <p>2.16倍</p>
SSH第IV期指定校としてのSSH	<p>① 科学の甲子園等のコンテスト、研究発表会入賞者数 35名（31名）</p>	<p>38名</p>

事業の充実	② 生徒の英語での研究発表 100件 (93件) ③ 授業公開、地域向け講演会、研究発表会の開催回数 18回 (16回) ④ SSHクラス以外の生徒向け理数講演会、教科融合型の講義、ワークショップ等の開催 12回 (10回) ⑤ 小・中学生向けの理科実験教室の開催 6回 (6回) ⑥ 理科教員向けの理科研修会の開催 30回 (20回) ⑦ 本校主催のSWR (理系女子交流会) の発表校数と発表者 20校180名 (22校164名) ⑧ 本校で開催するTSS (生徒研究成果合同発表会) の発表校数と参加者数 40校700名 (38校700名)	96件 11回 10回 5回 3回 3校63名 10校209名
Tokyo スマートスクールプロジェクト並びに「東京型教育モデル」の実現	① 暗記中心、チョーク&トークのパッシブな授業形態や過去の成功体験からの脱却した主体的・対話的で深い学びの授業実践 全教職員による実施 100% ② 校内Wi-Fiを活用したICTによる全教職員による授業実践 100% ③ 全教職員によるオンライン授業のあり方の構築及び実践 100%	30% 50% 100%

3 次年度に向けた課題と対応策

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策に明け暮れた一年であった。特に、感染予防の観点から保健部を中心とした消毒対応等、教務部の臨時休業期間の授業を補うべく学校行事の見直し、時間割の作成、生徒部の部活動対応とサーモグラフィーカメラ対応、総務部の対面からオンラインに切り替えての募集活動、進路部の模試対応と長期休業中の講習、SSH部とTM部の業務見直し等、全分掌が様々な対応を行った。また、全教職員が「学びを止めない」を合い言葉に、課題配信、YouTube動画の作成、Zoomのオンライン授業等を行った結果、生徒の進路実現に至った。まさにパラダイムシフトが起こっている中で学校の在り方が問われたが、全教職員の一致団結したそのプロセスは評価に値する。

進学指導重点校として、下位層のすくい上げは功を奏し、現役国公立大学現役合格者数は145名、早慶上理175名、MARCH214名という結果になった。東京大学現役合格者は8名で昨年より1名減少したが、昨年は9クラス編成での結果だったので、遜色ない結果である。しかしながら、上位層を伸ばすための取組も求められていることから、次年度は上位層を引きつける「授業改善」を全校挙げて実施していく。また、新学習指導要領導入1年前として、教科書の選定、新たな科目の準備等が迫られる。GIGAスクール構想スクールの実現のためのICTの活用、Office365のTeamsの活用、コンピテンシーベースの授業の在り方や観点別評価導入に向けた準備等、組織的な対応を行う。

次年度は、新型コロナウイルス感染防止対策を意識した学校経営が引き続き求められる。感染状況によってはオンラインでの授業配信等の対応も視野に入れた対策を構築する。進学指導重点校としての数値を意識しながら、STEAM教育、生徒たちの卒業後のキャリアを見越した学力の育成の実現を図っていく。